

マイスター・ハイスクールだより

北海道教育庁学校教育局高校教育課
[令和4年度第3号] R5.2.28発行

～文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」(北海道静内農業高等学校)～

令和4年度 第3回運営委員会を開催

1月25日(水)、令和4年度第3回運営委員会を、静内農業高校で開催しました(参集とオンラインによるハイブリッド開催)。委員会では、生徒からの事業報告とプロジェクト学習の取組について、桑名副校長(マイスター・ハイスクールCEO)から、今年度の事業評価について、それぞれ報告があり、運営委員から指導・助言をいただきました。

生徒からの報告

マイスター・ハイスクールの事業で取り組んだ内容や、プロジェクト学習の取組について報告がありました。

学科(コース)	今年度の主な取組
生産科学科 (馬事コース)	・競走馬の育成や利用と調教 ・繁殖牝馬の管理と栄養 ・乗馬療育 など
生産科学科 (園芸コース)	・地域の園芸生産の特色や課題 ・GAPによる農産物の付加価値向上 ・新規就農 など
食品科学科	・外部連携による新商品の開発 リコッタ、ゴーダチーズ、タルト、 レトルトカレー、焼き肉のタレ など
全学科	・地域や農業の魅力発見と発信 ・ネット販売の実践 ・留学生の受け入れ など

【プロジェクト発表】

「活気あるホースタウンを目指して」

～馬を利用した教育プログラムの実践～

日本一の馬産地の次代を担う子どもたちに馬の魅力を伝えたいと考え、3Dプリンタを活用して安定感のある鏡(あぶみ)を製作し、より安全に乗馬が行えるような取組や、小学生に対して、スライドや模型を使いながら馬の特性について説明する出前授業を実施した。

小学生からは、「とても乗りやすい」「馬についてたくさん知ることができた」と高評価だった。

こうした活動の様子は、様々なメディアに取り上げられ、地域のみならず全国に向けて発信することができた。



生徒による報告の様子



会場に掲示された
プロジェクト学習の取組



取組を報告する生徒



3Dプリンタで製作した鏡

CEOからの報告

学校長から、定量的目標及び定性的目標に対するアンケートの結果を基に、本事業を通じて、生徒がどのように変容したかなどについて報告があり、次年度の取組の方向性が示されました。

【評価方法】全校生徒を対象にアンケートを実施し、(4:大いにあてはまる(思う)、3:あてはまる(思う)、2:あまりあてはまらない(思わない)、1:まったくあてはまらない(思わない))の4つの選択肢から回答。そのうち、4又は3の回答を肯定的な評価として捉え、その割合の変化で達成度や習得度を測定。(年度始は6月、年度末は12月に実施)

<「定性的目標」に対する評価>

	項目	年度始	年度末	増減
【自己認識】	自分を客観視する力、自分に対する自信ややり抜く力	72.2%	78.5%	+6.3P
【意欲】	物事に対して意欲的に取り組める力	76.0%	81.9%	+5.9P
【忍耐力】	根気強く物事にあたる力	64.3%	71.8%	+7.5P
【自制心】	自分自身の感情や欲望などをうまくコントロールする力	69.5%	77.4%	+7.9P
【メタ認知 ストラテジー】	自分が今置かれている状況や理解度を把握する力	74.0%	80.6%	+6.6P
【社会性】	リーダーシップがとれ、他者とのコミュニケーションがとれる力	62.6%	68.3%	+5.7P
【回復力と 対処能力】	問題が起こった時にすぐに立ち直れる、またそれに対応できる力	66.6%	72.0%	+5.4P
【創造性】	ものを作ったり、工夫したりする力	61.7%	67.3%	+5.6P

< 「定量的目標」に対する評価 >

項目	目標値	年度始	年度末	増減
ア 地域に魅力を感じ、愛着をもった生徒の割合	在籍者の80%以上	64.9%	72.1%	+ 7.2P
イ 地域の課題を発見し、解決に向けて多面的・論理的に考え、行動できた生徒の割合	在籍者の80%以上	59.2%	67.5%	+ 8.3P
ウ 将来、地域のために貢献したいと考え、行動できた生徒の割合	在籍者の80%以上	40.8%	53.7%	+ 12.9P
エ 様々な産業人との交流を通し、自身の進路について考えることができた生徒の割合	在籍者の80%以上	62.8%	76.2%	+ 13.4P
オ 自身が目指す進路に関連した資格取得を積極的行えた生徒の割合	在籍者の80%以上	80.4%	82.5%	+ 2.1P
カ ITやICT、IoTの役割を理解し、活用することができる生徒の割合	在籍者の80%以上	79.3%	82.8%	+ 3.5P
キ 卒業後、即就農及び地域の主要産業への就職者の割合	卒業生の50%以上	55.3% (過去3年平均)	54.1%	- 1.2P
ク 卒業後、就農及び地域の技術者を目的とした進学者の割合	卒業生の40%以上	18.4% (過去3年平均)	31.3%	+ 13.1P
ケ 英語で日常的なコミュニケーションができるようになった人の割合	卒業生の30%以上	42.0%	50.4%	+ 8.4P
コ 在学中に海外の人と交流した人数	卒業生の50%以上	72.5%	92.5%	+ 20.0P
サ 将来的な新規参入を目指して進学または雇用就農した人数	3人以上(3年間累計)	0人	2人	+ 2人

< 次年度の取組の方向性 >

- ・ 2年間の成果を踏まえた教育課程全般の充実と改善による、産業界と連携した人材育成プログラムの構築
- ・ 「プロジェクト学習」の充実など、地域の課題解決に取り組む学習活動の充実
- ・ 専門的職業人材に依頼する授業内容と教員が行うべき授業の機能分担の明確化
- ・ 外部講師による授業の実施方法の検討（対面とオンラインの効果的な活用）
- ・ 生徒の進学先に応じた個別最適な学びの提供に向けた校内協議の実施
- ・ 指定期間終了後を見据えた振興局や企業、経済団体等との連携のあり方の検討



運営委員会で試食提供された今年度の開発商品8品

運営委員からの指導・助言

今年度の取組に対する意見

- ・ 地域の産業への就職、就業に結び付く機運が少しずつできており、取組がよい方向に進んでいると感じている。
- ・ 生徒達が楽しみながら授業を受けていることが、大変よく伝わってきた。
- ・ 本来なら地元の企業がやるべきの安全な灯の製作に、高校生が問題意識をもって取り組んでくれたことに大変感謝している。
- ・ 地域連携の充実は、地域の魅力を知り、愛着をもつことにつながり、進路にも反映されるため、大事にしていきたい。
- ・ 獣医療の学習において、知識や技術の習得と同じくらい心の教育が大切であり、小学生との交流により、コミュニケーション能力を高めることは、とても大きいと感じている。

課題や今後の取組に対する意見

- ・ 地域に貢献したいという考える生徒を増やすために、プロジェクト学習において、成功や失敗などの様々な経験を重ねたり、関係機関との連携の中で、社会性を高めるなど、自信を付けていくことが大切である。
- ・ 町の広報やテレビ、新聞などによる取組の発信は、地元の人の話題になったり、注目されるためにも大事だと考える。
- ・ 取組を充実させることは素晴らしいことであるが、長い目で見て、生徒の負担になりすぎないような連携のあり方を考えていく必要がある。
- ・ 外部講師として授業を行う上で、何が一番効果的で、どんな観点か価値の高い授業なのかを考えていきたい。
- ・ 企業として、職員の待遇改善に取り組むとともに、水産業や卸業など異業種の取組を職員の研修に活用したい。

伴走者からの指導・助言

- ・ 事業終了後に向けて、この素晴らしい取組の火を消すことなく継続していけるよう、教育委員会や新ひだか町、企業等が意見を出し合い、議論を進めてほしい。